

「がん対策推進基本計画」に喫煙者率引き下げの数値目標を盛り込むことについての
日本たばこ産業株式会社の意見

実際に、我が国における成人男性の喫煙者率は、戦後数十年の長期にわたり概ね半減近くまで大幅に減少してまいりましたが、一方肺がんによる死亡率(年齢調整)は、ここ数年横這いとなっているものの長年一貫して上昇してきたとの事実があります。

A 「喫煙率が下がっても肺ガン死亡率が減っていないじゃないか」

また一部報道によれば、「がんによる死亡率を減少させるために、喫煙者率引き下げの数値目標設定が不可欠である」旨の見解が示されているようですが、喫煙者率の減少によりがんによる死亡率の減少が達成できるかどうかは疑問です。

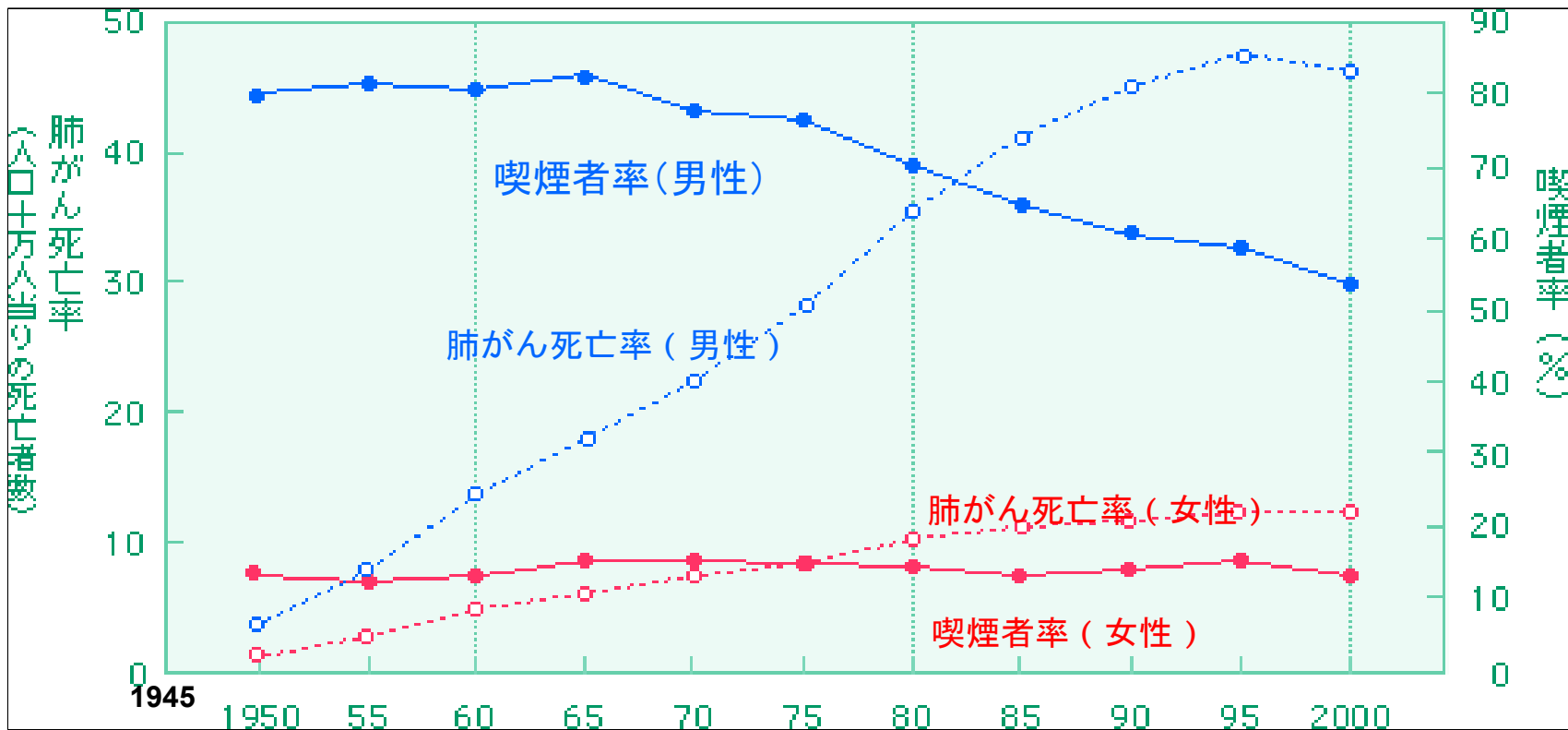
- ✓ がんを含む生活習慣病は、喫煙のみならず、運動不足、栄養の偏り、飲酒など様々な生活習慣や加齢、生活環境等その他の要因が複雑に絡み合って発症するものであり、例えば、国別に見ても、ある国の喫煙者率と、たばこ関連疾患とされるものの代表例である肺がんによる死亡率との間には、明らかな相関があるとはいえません。

B 「喫煙を減らしてもガン減るかどうか疑問だ」

JTの呈示した意見と資料

実際に、我が国における成人男性の喫煙者率は、戦後数十年の長期にわたり概ね半減近くまで大幅に減少してまいりましたが、一方肺がんによる死亡率(年齢調整)は、ここ数年横這いとなっているものの長年一貫して上昇してきたとの事実があります。

日本における喫煙者率と肺がん死亡率の推移



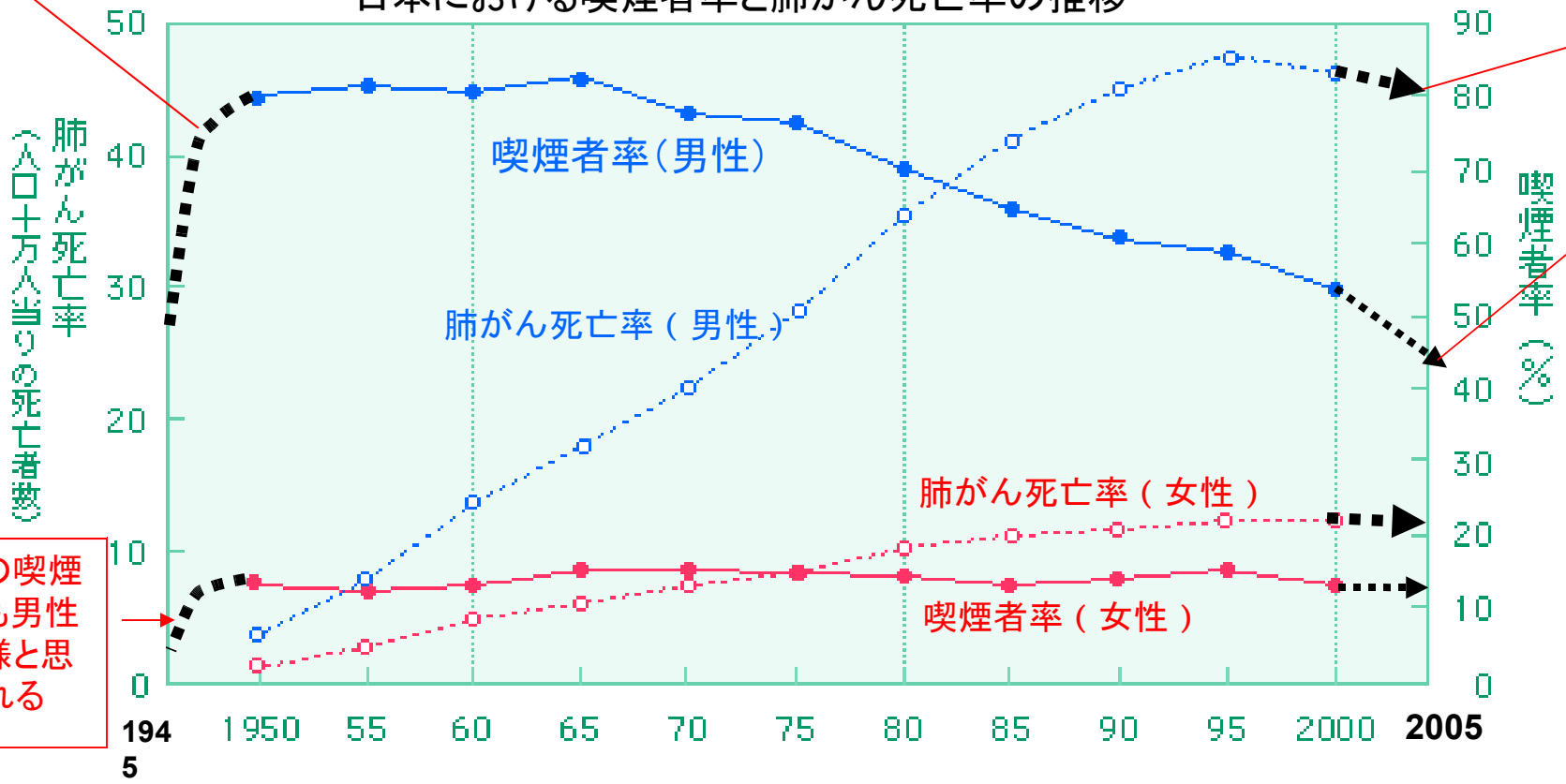
JTのグラフは大事なことを隠している(.....で表示):

- 2006年の男性肺ガン死亡率(年齢調整)はさらに低下した(②)
- 1945年の喫煙率・喫煙量は1950年よりずっと少なかった(③④)

③ 1945年でも男性喫煙率は8割台と思われるが、一人当たりのタバコ消費量は1950年の3分の1程度だった

JT調査より
① 2006年 41.3%
② 2004年 45.2
厚労省統計より

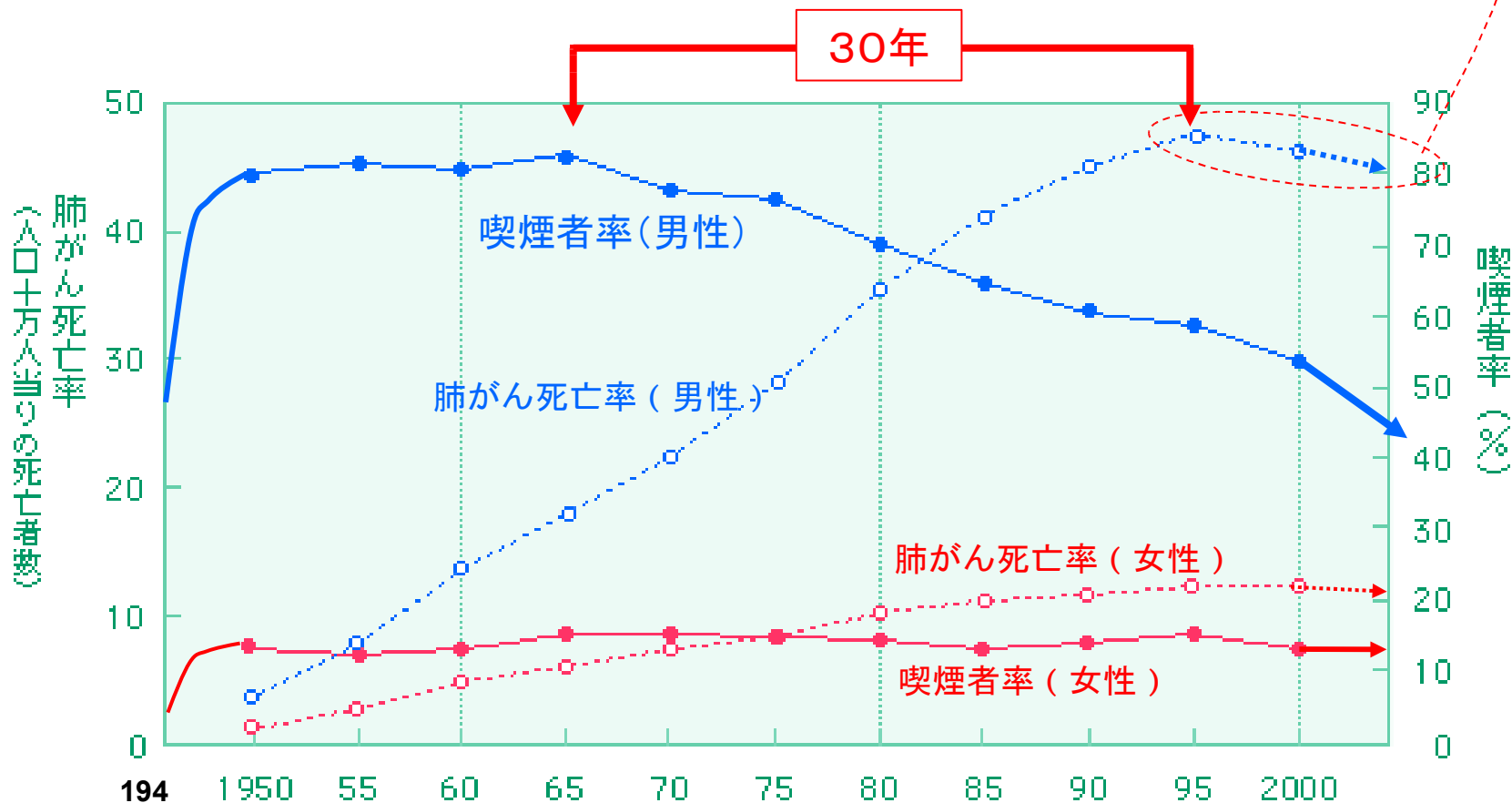
日本における喫煙者率と肺がん死亡率の推移



④ 女性の喫煙傾向も男性と同様と思われる

訂正したグラフから読み取れること:

- 日本では、1965年頃から男性喫煙率が下がり始め、男性肺ガン死亡率は30年後の1995年から下がり始めた。
- 女性喫煙率は1950年ころに頂点に達したまま減る傾向がなく、肺ガン死亡率も減る傾向がない。



日本における喫煙者率と肺がん死亡率の推移

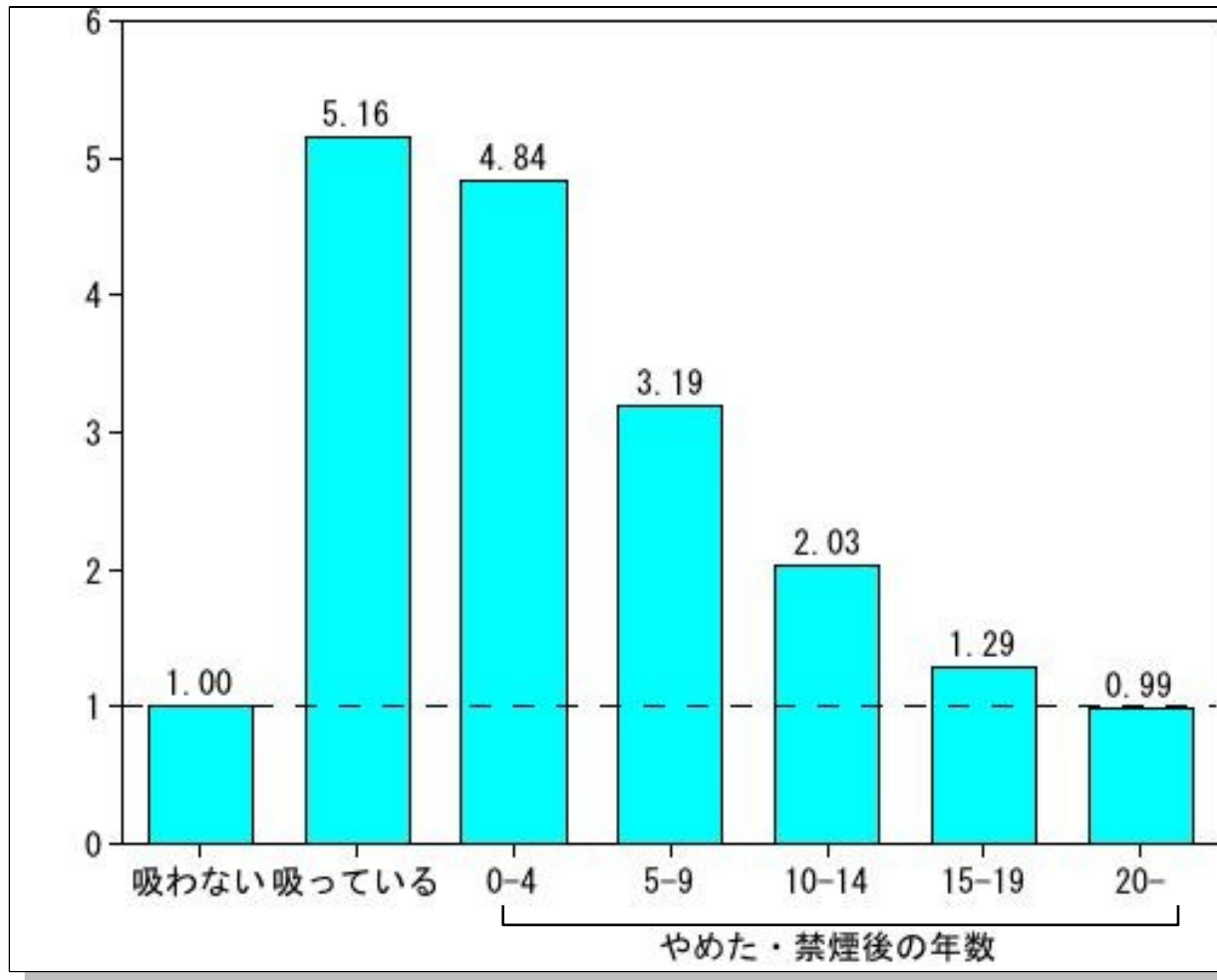
B 「喫煙を減らしてもガンが減るかどうか疑問だ」論の検証

JTの意見

「また一部報道によれば、「がんによる死亡率を減少させるために、喫煙者率引き下げの数値目標設定が不可欠である」旨の見解が示されているようですが、喫煙者率の減少によりがんによる死亡率の減少が達成できるかどうかは疑問です。…がんを含む生活習慣病は、喫煙のみならず、運動不足、栄養の偏り、飲酒な様々な生活習慣や加齢、生活環境等その他の要因が複雑に絡み合って発症するものであり…」

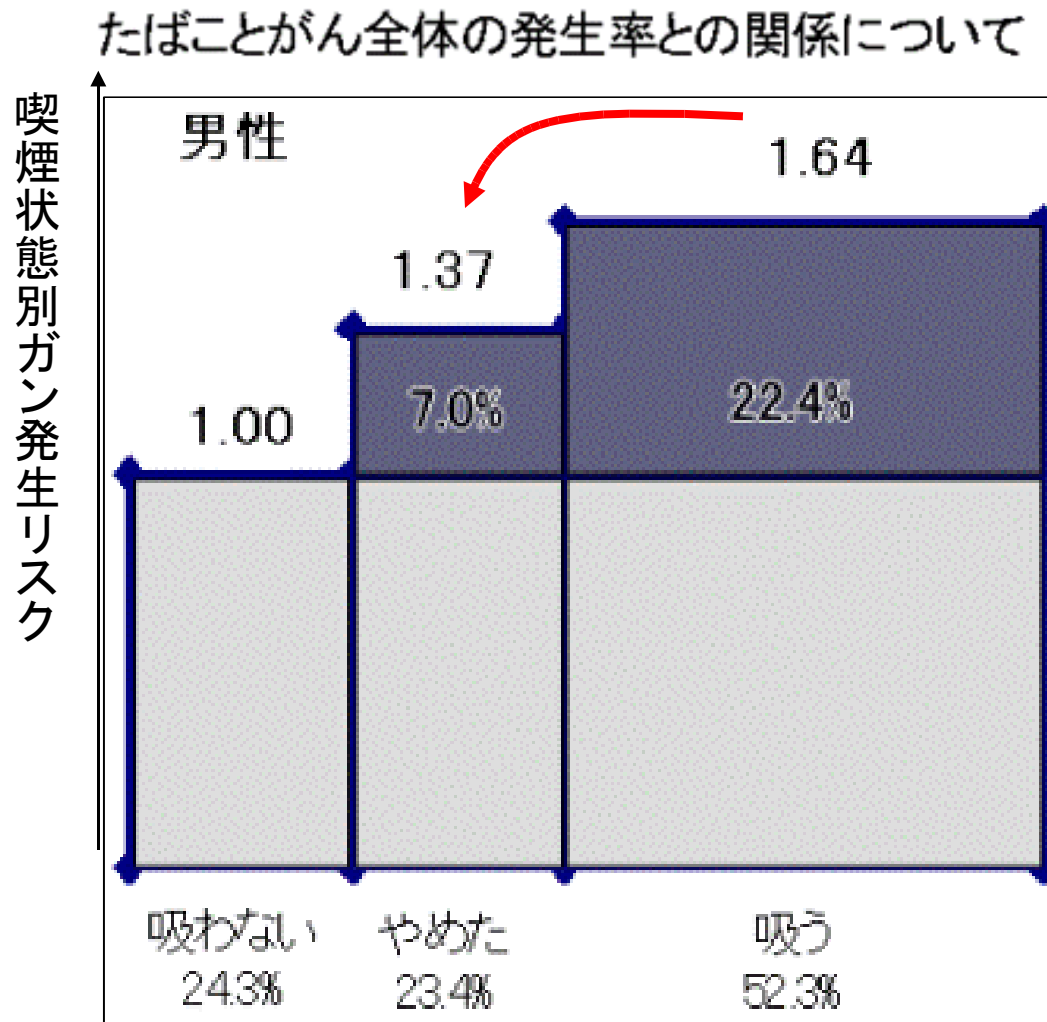
禁煙すると肺ガン死が減った

文科省がん特定領域大規模コホート研究(2001年)



禁煙するとガン発生率が減った

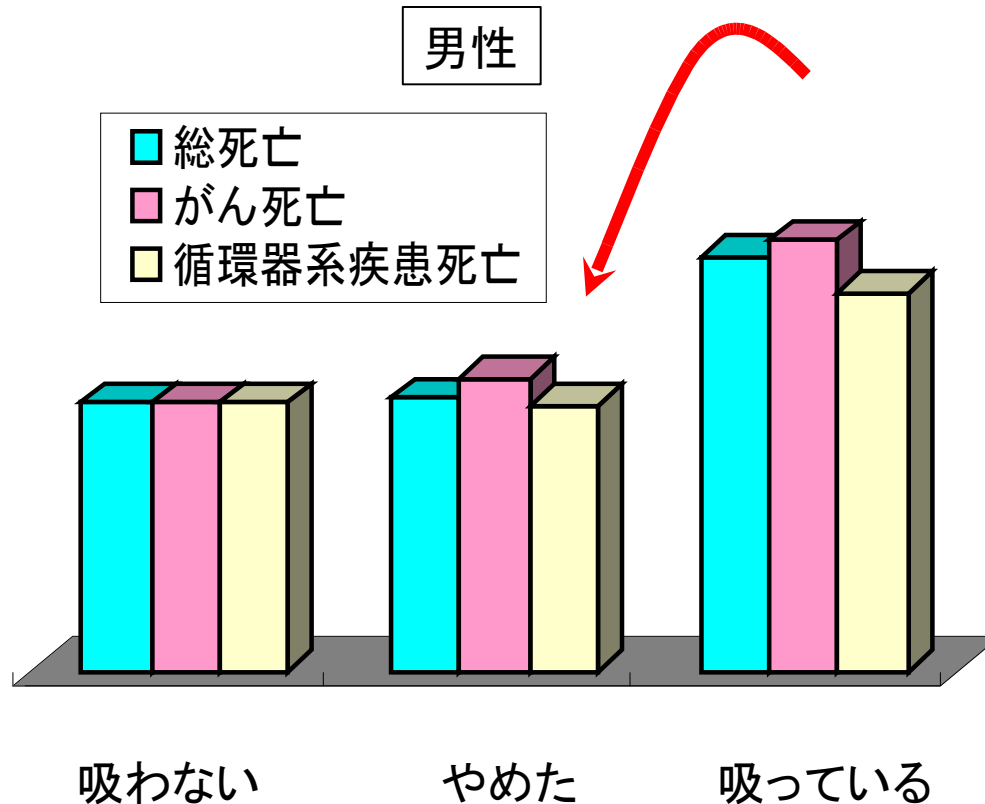
厚生労働省研究班による多目的コホート研究(2004年)



禁煙するとガン死亡率も減った

厚生労働省研究班による多目的コホート研究(2002年)

8



非喫煙者の死亡のリスクを1とした場合の、居住地域、年齢、喫煙、学歴、薬の使用、高血圧の既往、運動、食習慣を補正した、各グループの相対リスク

禁煙するとガン死亡率が減った

茨城県健診受診者生命予後追跡調査(2005年)

